

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式15個(選択式13個,記述式2個), 論述式14題(1行×1, 2行×9, 3行×4, 計31行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)
 難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

客観式の解答数は5個増加して15個となったが、論述問題の数は昨年度の17題から3題減少し、行数も5行減少したため、分量はやや減少した。内容的には、書きにくい論述問題も含まれるが、頻出のテーマが多く、全体の難易度は昨年と大きな変化はない。

出題の特徴

さまざまな地図と地理情報を扱った主題図や地形図が近年多用される傾向にあるが、本年は第1問設問Bでメッシュマップを用いた問題が出題された。環境問題、貿易、日本の産業構造の変化や地域別特徴、ニュータウンのオールドタウン化など、これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり、過去問の学習も必要である。

その他ピックス

メッシュマップを扱った問題は1978年以来で、人口密度を求める計算問題もそれ以来である。第2問設問Aで扱われた窒素は、2007年第2問設問Bで扱われたことがある。第1問設問Bのメッシュマップについては、大学受験科論述編のテキストで扱っている。第2問設問Bの国際旅行者については、「第2回東大即応オープン」で扱った。第3問設問Aでは、2011年に起こった東日本大震災を扱った問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述 論述	自然環境と 人間活動	設問Aは、書きやすい問題であり、確実に得点したい。設問B(1)は、標高データから「比較的大きな河川」がどう流れているのかわかれば容易である。5つの要素をすべて解答に盛り込むのを忘れないようにしよう。設問B(2)の人口密度の計算問題は、単位を間違えないようにしたい。設問B(3)はメッシュマップから自然環境を具体的にイメージできるかで差がつかいだらう。	標準
第2問	選択 記述 論述	世界の国際貿易と 国際旅行者	設問A(2)は、判定が難しいが、問題文をよく読んで、輸出入の多少や、生産過程別の内訳から判断しよう。設問A(4)は、ヴァーチャルウォーター(仮想水)の考え方を当てはめることで、解答が見えてくる。設問B(3)は、指定語句から解答の方向性を見つけたい。	標準
第3問	選択 論述	日本の産業と国土	設問A(3)は、震災による製造業への打撃と復興にともなう建設需要の増加をまとめればよい。設問B(1)は、各半島についての文章からヒントを探したい。設問B(3)は、「グローバル化」という指定語句が使いづらく、文章力が求められる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 客観式問題での得点が合否にかかわるため、教科書やセンター試験の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
- 指定語句を使ったり、資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので、60字程度の短い論述演習を繰り返し、限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
- 統計を解釈する問題が頻出しており、統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
- 日本の変化に関する問題が頻出しており、「高度経済成長期」、「石油危機」、「円高」、「バブル崩壊」、「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。
- 日本に関しては、具体的な地域についての知識よりは、大都市圏と地方圏、大都市圏内の都心と郊外、地方圏における中心都市など、機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
- 今年はメッシュマップが出題されたが、標高区分図や地表起伏図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図の読図をもとに、具体的な地形がイメージできるようにしておきたい。